

“答え”が導きだされた時の知的興奮は、 何にも代え難い喜びとなる

真島理恵 熊本学園大学商学部講師

心と社会の関係性を解き明かす それが社会心理学

大学入学時点では、進路として“研究職”はまったく考えておらず、学部2年の後半に所属コースを選ぶ際、「なんとなく面白そう」という興味から『社会心理学』の講座を選びました。講座分属後、ゼミでの議論に参加し、教員や大学院生とともに研究を進めるなかで「新たなものの見方に気づき、目からうろこが落ちる」という経験や、議論のなかでアイデアを発見する「知的な興奮」というものを初めて経験し、研究というものに強く魅力を感じ、「もっと研究を続けたい」という思いが強くなっていきました。自分が研究者としてやっていけるのか、研究職につけるのか……などの不安も大きかったのですが、「もう少し研究をしたい」という気持ちがあるうちは続けてみようと考え、修士課程・博士課程進学を決めました。

専門は社会心理学です。「社会が個人にどのような影響を与え、個人の行動がどのように社会に影響するか」という心と社会の関係性を解き明か

し、人間行動や社会現象を予測する原理を解明することを長期的な目標としています。

「なぜ」の答えを発見した時の 知的興奮、これが研究の醍醐味

私にとっての研究の魅力とは「なぜ」という問いに対する答えを発見したときの“知的興奮”に尽きます。実験やシミュレーションという道具を用いて、人間行動や社会についての「なぜ」を説明可能な原理を見つけることは、この上なくエキサイティングな体験です。

進路を考える際にはまずは最大限、情報を集めてください。特に大学院選択にあたっては、ウェブ上で得られる情報や教員の本・論文を読むだけでなく、必ず直接研究室を訪問し、教員や大学院生から話を聞く機会を作ることを、強くお勧めします。情報収集するなかで、最初は漠然としていた自分の興味の所在がはっきりしてきます。**自分の関心や将来設計にあった場所を見つけることが、研究の楽しさを発見するための第一歩だ**と思います。



熊本学園大学での「心理学」の授業風景。担当授業は、100～350人の大教室で行うことが多い



研究室でコーヒーを淹れるためのセット。(豆・ミルク・ドリッパー・サーバー)



Rie MASHIMA

文学部 修士課程 博士課程 ポスドク 大学教員

研究する
楽しさ
研究できる
環境に
感謝です

One day

7:00 起床
9:00 大学へ
9:30 就業
講義、会議、講義準備、研究活動
18:00 講義準備、研究活動
21:00 帰宅、夕食など
1:00 就寝

◎座右の銘

努力は決して裏切らない
「たとえ当該の目標が達成できなかったとしても、必死に努力した経験は必ず自らの力になる」という意味で

profile

ましまりえ / 2002年北海道大学文学部人文科学科卒業、2004年同大学大学院文学研究科修士課程修了、2007年博士後期課程単位取得退学。同年より一年間日本学術振興会特別研究員(PD)として勤務し、2008年北海道大学大学院文学研究科博士号(文学)取得。2008年熊本学園大学商学部専任講師に着任。現在に至る。2006年に日本心理学会優秀論文賞受賞



要望他、自由意見

- 仕事(講義、研究、管理運営、社会貢献)や家庭生活などに費やす時間配分の決定権がほしい
- 定期的な面談(上司と相談できる機会)を制度として設けてほしい